



「仙台うみの杜水」

ユが泳ぐ様子や、川に水を飲みに行くニホンリスの様子も眺められる。世界最小のフェアリーペンギン、淡水にのみ生息するバイカルアザラシ、白と黒の体色のイロワケイルカなど、世界中

仙台東部道路仙台港インターからすぐ。市が整備する高砂中央公園の一角にあり、付近は三井アウトレットパーク仙台港、キリンビール仙台工場などの商業施設も集積している。

697億7400万円、前年同月比2.4%減少した。サービス産業全体は26兆2625億5300万円で、同0.7%増加した。宿泊業の売り上げ減少は2カ月連続。昨年7〜

ほかの業種を見ると、娯楽業が2兆9473億4200万円で、同4.5%減。飲食店が1兆3549億6100万円で、同1.3%減。道路旅客運送業が2355億8800万円で、同2.7%増。

1月の需要状況D1(前年同月と比べて需要が増加した企業割合から減少した企業割合を引いた値)は、宿泊業が2.7で、前月(8.8)か

「露天風呂は源泉100%の掛け流しで、男女それぞれにありませぬ。森の木々に囲まれた岩風呂で、『星が見えなくては露天風呂ではない』というこだわりで屋根はかけていません。内湯は男女それぞれに、源泉掛け流しの浴槽と、湯温が高いので加水して調節した掛け流しの浴槽があります。飲泉の許可も得ています」

森の湯 山静館

温泉が評判です。

良くなるべきだ

旅館はもっと

旅館経営 タテ・ヨコ・ナナメ

佐野 洋一 〈1〉

一昨年ごろから、人手不足の問題が急速に表面化してきた。世間では新卒就職戦線の変貌ぶりが盛んに報道されているが、旅館業界ではそれが一層差し迫った問題である。全体に従業員がなかなか思うように確保できなくなってきた。

派遣に頼りたくても、人材派遣会社でも人の確保が難しく、出してもらえない人が足りないという状態がすでに各地で起こっており、派遣依存はコストだけの問題ではなくなりつつある。労働力不足は景気が好転すればきまって起こる現象だが、人手に頼る要素の多い旅館業界にとっては、とりわけ深刻な問題である。

労働力の不足(減少)に備える

労働力の不足は、景気の拡大・縮小といった比較的短い循環とは別に、底流には「生産年齢人口の減少」という長期的な趨勢があることを忘れてはならない。日本の労働力人口はこれから10年の間に8%減少すると予測されている。また人手不足の状況にないところ、また当面そのような懸念のないところも、いずれかなりの確かさで訪れる将来に備えて、この問題を

考えていく必要がある。事業を営む上で労働力に依存する割合の高い産業を「労働集約型産業」という。サービス業の多くはこれにあたり、とりわけ旅館業は労働集約型産業の最たるものである。労働力の不足が問題になるとき、その影響をまともに受けるのはこのためである。労働力の十分な確保が難しくなる場合、労働集約型の事業がとるべき方向性は二つある。

ひとつは、労働集約型からの脱却、すなわち「資本集約型」への転換を図る方向。徹底的な機械化、自動化により極限まで人手を省き、人手に依存せずに回せるモデルを実現することである。旅館商売でいえば、チェックイン・アウトの手続きをはじめ、部屋の清掃からセットアップ、食事の

提供まですべて自動的に行うような装置が仮に構築できればあり得る話ではある。しかしこれには提供サービス業の多くはこれに1ピスのあり方から建物あたり、とりわけ旅館業は必要がある。またこれを裏現するには、文字通り巨額をまともに受けるのはこのためである。もうひとつは、労働集約型を前提とした中での構造改革を目指すこと。それは人手に依存しながらも労働生産性を高める、すなわち労働者一人当たりの生み出す付加価値を高めるための改革を進めることである。本コラムでは、そのよう

新社長に木下専務

ニューアワジが新役員発表

ホテルニューアワジ(兵庫県洲本市)は4月1日付で新役員人事を発表した。代表取締役社長に前専務取締役の木下学氏、代表取締役会長に前代表取締役社長の木下紘一氏が就任した。役員人事はほかに、女将に木下圭子氏、取締役副会長に長尾照由氏(前常務取締役)、専務取締役に木下紘二氏(前常務取締役)、常務取締役総料理長に横井哲行氏(前取締役総料理長)。

よその旅館ホテル

Q&A

「露天風呂は源泉100%の掛け流しで、男女それぞれにありませぬ。森の木々に囲まれた岩風呂で、『星が見えなくては露天風呂ではない』というこだわりで屋根はかけていません。内湯は男女それぞれに、源泉掛け流しの浴槽と、湯温が高いので加水して調節した掛け流しの浴槽があります。飲泉の許可も得ています」

旅館ホテル・施設・団体

株式会社リョケン代表取締役社長 ※隔週掲載

「地鶏のたき鍋」が創業当時の名物です。地鶏をミンチにして、ひと口大のつみ